

第4回環境研究機関連絡会研究交流セミナー（2022.12.1）

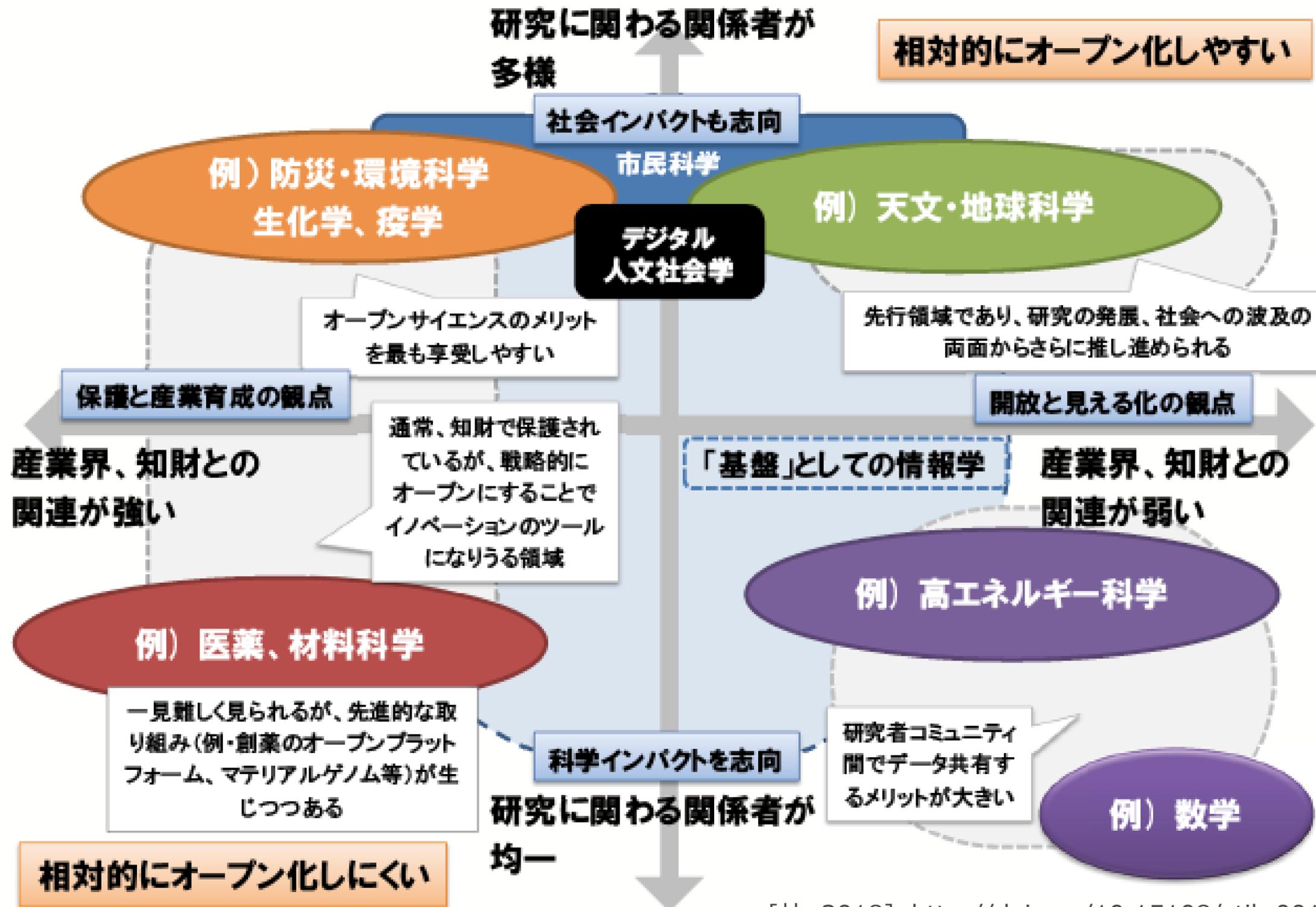
環境関連データの利活用促進に向けて

国立環境研究所 地球システム領域

白井知子



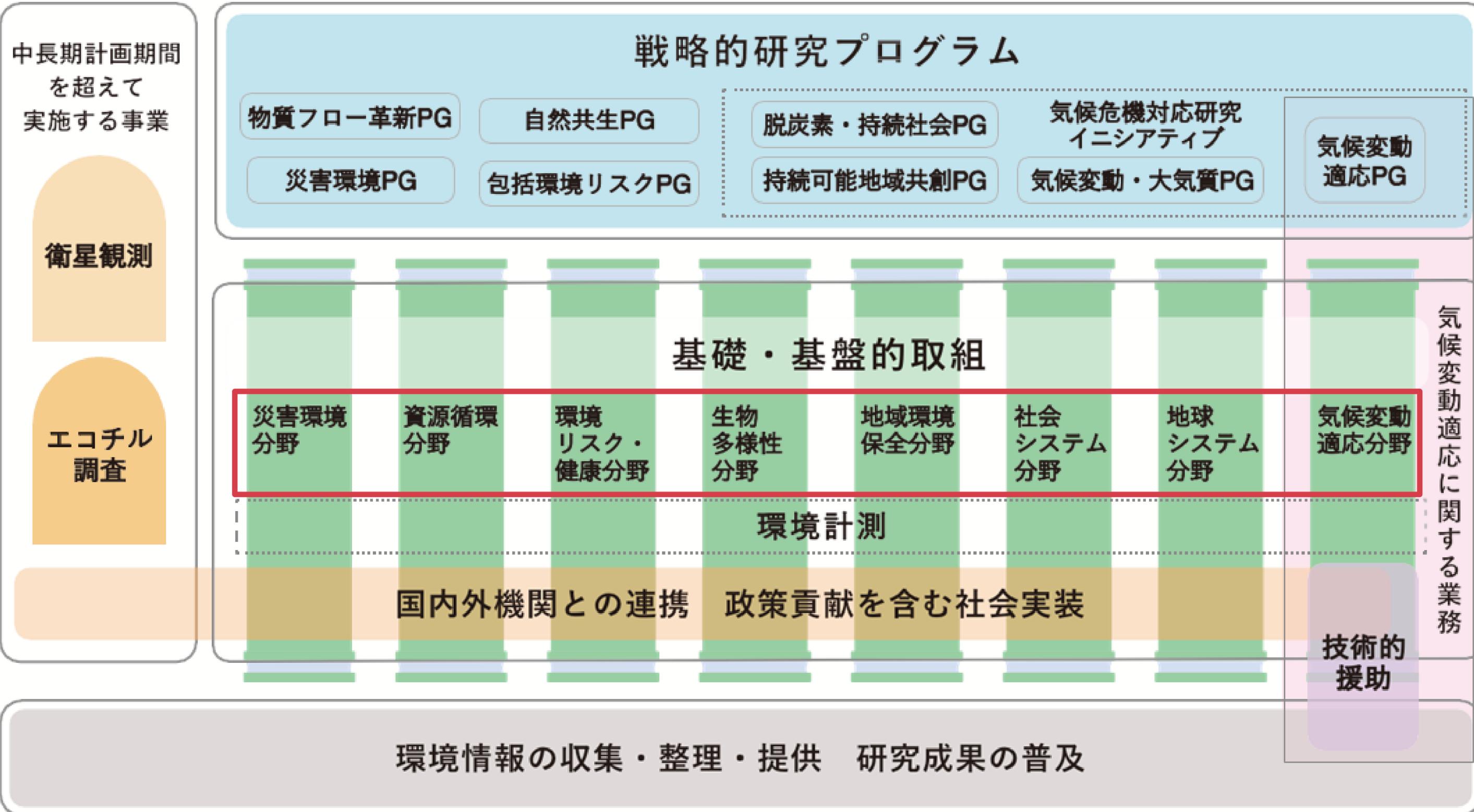
環境データのオープンサイエンスにおける位置づけ



社会的インパクトが大きい分野であり、関係者が多様なため、オープンサイエンスのメリットを享受しやすい。

一方で、純粋な自然科学系データと異なり、個人（地域）情報を含むデータや産業界・知財との関係で保護が必要なデータを含むため、オープンとクローズを使い分ける必要がある。

国立環境研究所第5期中期計画



国立環境研究所 第5期中期計画：基盤となる8分野

全球的/国際比較



地球環境

気候変動適応

生物多様性



社会

人文・社会科学

自然科学

リスク・健康

化学物質データベース Webkis-Plus

環境多媒体モデル G-CIEMS



資源循環

地域環境保全

災害環境



地域 / 対象限定

研究所内でも分野により、データの取得方法や使用目的も様々で、メタデータの統一や詳細なデータポリシーを設定するのが難しい。

オープンデータへのインセンティブも分野や事業によりさまざま。

国立環境研究所 第5期中期計画：基盤となる8分野



組織を超えて近い分野で使い合うところからデータ共有・利活用が進むのでは

まとめ

- 環境データの多様性
分野によりデータの性質が大きく異なる
- 近い分野間のデータ共有
組織を超えたデータ利活用
- データの相互運用性の向上
データの標準化・品質管理の仕組み
データ公開基盤の整備・連携

分野を超えたデータ利活用へ

